新庁舎建設特別委員会の概要（第３０回）

１　日　時　　第３０回　令和７年３月１７日（月）
　　１０時０分～１２時

２　場　所　　第１議会委員会室

３　出　席　　全委員

４　内　容　　１　課題に対する執行部からの回答について
　　２　その他

◆配布資料
・新庁舎整備と新体育館整備に伴う財政見通し
・浸水害発生時の避難所の確保
・プラザちゅうたい閉鎖期間中の活動体育館（予定）
・プラザちゅうたい、中央図書館長寿命化に伴う経費新庁舎整備基本計画策定時に検討すべきプラザちゅうたい建設スケジュール

財政関係の情報、浸水害発生時の避難所の確保、プラザちゅうたい閉鎖期間中の考え方など詳細な説明を受けた。

１　課題に対する執行部からの回答について
【主な説明内容】
〈新庁舎整備と新体育館整備に伴う財政見通し〉
・実質公債費比率の見通し
実質公債費比率は家計に例えると、家族の年収に対する家族全体の借金返済の割合を示すもので、直近令和５年度は4.4%となっている。
新庁舎をプラザちゅうたい周辺、新体育館を前平プール跡地にした場合、令和 17 年に 10%。新庁舎をプラザちゅうたい周辺、新体育館を畜産研究所周辺にした場合、令和 18 年に 10%となる見込み。どちらも警戒ラインの 15%は越えないと見込んでいる。
・将来負担比率の見通し
将来負担比率は年収に対する家族全体の負債の割合を示すもので、直近令和５年度は-69.1%となっている。

新庁舎をプラザちゅうたい周辺、新体育館を前平プール跡地にした場合、令和 12 年に 30%。新庁舎をプラザちゅうたい周辺、新体育館を畜産研究所周辺にした場合、令和 18 年に 30%となる見込み。どちらも財政健全化団体として自主的な改善による健全化を行う 350%は越えないと見込んでいる。

・地方債残高の見通し

整備地の組み合わせによる地方債残高の見通しの説明。

〈浸水害発生時の避難所の確保〉

プラザちゅうたいを壊した後の避難所の確保について計画規模（L1)、想定最大規模（L2）それぞれの避難所について説明。

〈プラザちゅうたい閉鎖期間中の活動体育館（予定）〉

プラザちゅうたい閉鎖期間の時、活動する場所についての取りまとめ。

・正眼寺短期大学体育館　・国際たくみアカデミー体育館　・富加町体育館（B&G）
・坂祝町体育館（中央公民館、東館、西館）　・可茂特別支援学校体育館
・中日本短期大学体育館　・あじさいエコパーク　・牧野交流センター

〈プラザちゅうたい、中央図書館長寿命化に伴う経費〉

・プラザちゅうたい：約 3 億 400 万円
H30～R6 物価上昇率 1.332 倍すると約 3 億 6,200 万円
・中央図書館：約 3 億 7,400 万円
R2～R6 物価上昇率　1.322 倍すると約 4 億 8,8000 万円

〈プラザちゅうたい建設スケジュール（再考案）〉

新たな建設スケジュールの提示。

・パターン１：新庁舎（R14 年度)、体育館（R13 年度）供用開始
新庁舎 2 年遅延、体育館不使用期間 1 年
・パターン２：新庁舎（R13 年度)、体育館（R12 年度）供用開始
新庁舎 1 年遅延、体育館不使用期間 0 年
・パターン３：新庁舎（R14 年度)、体育館（R12 年度）供用開始
新庁舎 2 年遅延、体育館不使用期間なし

パターン３はかなりタイトでどこまでできるのかということをしっかりと詰めるのは、基本計画を作成していく段階で行っていく。

〈前平市民プールの補助金返還〉

プールが作られたのが昭和 58 年、取り壊しがされたのが平成 30 年で、使用期間 35 年。50ｍプール、観覧席、噴水、スライダーなどの処分制限期間というのは 30 年で管理等以外は国の補助金等もらっているが、処分制限期間 30 年使わないといけないところ、35 年は使っており、国の補助金の返還は必要なかった。県の補助金も必要なかったということを確認している。

【委員会で出た主な意見】

〈委員〉実質公債費比率や将来負担比率について、どのように解釈したらよいか。

→実質公債費比率であれば 18%、将来負担比率であれば、350%という国の基準を超え

ることはないと思っているが、厳しい財政運営になると認識をしている。
〈委員〉実質公債費比率と将来負担比率について、複数候補地の資料も出してほしい。南海トラフ地震発生時のプラザちゅうたいの役割については。
→ 地震も想定されるのは 2 つあり、南海トラフ関係と直下型がある。南海トラフの場合の避難者数は、想定人数が約 2100 人、直下型が約 5000 人と言われている。想定人数から考えたとき、地震で美濃加茂市のどの部分に大きく地震影響があるのか、非常に難しいところがあるが、今の想定人数からいけばこの浸水害で開けるという収容可能な避難所は十分に 2,000 人、5,000 人という部分については避難できるだけの避難所が実際にあり、体育館がない 2 年 3 年、閉鎖期限があったとしても十分に対応しきれるという考えである。
〈委員〉建物の長寿命化をみると、50 年以上経っているものが 9 施設、45 年以上のものが 7 施設ある、それも含めた財政計画か。
→現時点で見込める 10 億円以上の大型事業については入れ込んである。
〈委員〉公共施設等総合管理計画との整合性はあるか。
→プラザちゅうたいは今回、更新であり、総合管理計画の 3 大原則には反しないと思っている。
〈委員〉プラザちゅうたい閉鎖期間について、利用者に理解されているとは思わないが。
→輪番制の大会等もあるので、他の近隣の町村の体育館で大会を行うということで賄える部分というのもかなりあると思う。中体クラブや個人的にバトミントン、卓球などやっている方たちについては、他の体育館でということになり、他で代替できない部分があれば、他の体育館を併用していくということで賄っていく。
〈委員〉修繕は必要だが、10 年ぐらいは使えるので、前平に体育館を建ててから引っ越しをしてはいけないのかという意見があるが。
→最大で 3 年間閉鎖して使えない時期があるということになれば、それに対して困るという声もあるし、新しい環境が前平にでき、期待したいという声もある。そこが多いか少ないかという判断よりも、これから市のまちづくりとしてやっていった場合にどういったパターンが一番いいのかと考えたとき、前平に体育館を持っていくときに閉鎖期間をいかに短くするかという調査研究をしっかりと進めていく。
〈委員〉生涯学習センターを L1、L2 で避難所としている理由は。
→生涯学習センターは初期避難所として開設をすることになっている。L1 の可能性があると初期避難所として開設する。L2 になる可能性があると分かった段階では基本的には垂直避難になり、4 階 5 階 6 階という浸水しない高さへの避難をしてもらう。L2 になるということが分かっている、予測できた場合には初期避難所の生涯学習センターを開かずに北部の方を中心に開いていくなど、その時の状況等に感じて、生涯学習センターを最初に開かないということの判断もある。状況によって変わってくるので、常に勉強し研究していきたい。
〈委員〉先に前平に体育館を建てれば庁舎建設は遅れるがその方が良いのでは。
→必ずしも他の体育館を使うことが悪いということは考えていない。閉鎖期間をいか

に短くしていくかということはしっかりと詰めていく。

〈委員〉プラザちゅうたいの閉鎖期間は作るべきではない。

→プラザちゅうたい建設の3パターンの中で、2年のところもあれば、2年の可能性、1年の可能性もある。ゼロにできる可能性もある。どれに決めるということについては、調べきれていない。延べ人数は7万8千人であるが、実人数は拾えていないので、実人数が分かってくると、代替施設で賄うことができるのか、同時にヒアリングをかけながら1年なら我慢できるという意見や、我慢できない、入りきらないということが出るのであれば、不使用期間はゼロにしていくことも想定しなければいけない。不使用期間をゼロにした場合、庁舎を維持できるのか、エアコンが壊れたときに修繕可能なのか、熊本地震のような2回続く地震が来たときに耐震ができていても、コンクリートの劣化には耐えられないかもしれないということがある。

〈委員〉プラザちゅうたい、前平のプール跡地、畜産研究所について、現地視察したい。

〈委員〉プラザちゅうたい案が出てきて、1か月しかたっていない。市民の声を聴いてどうしていくかが議員の仕事で、3 月いっぱいで結論は出せない。8 地区で執行部が説明会を開くべき。

→これから基本設計等、基本計画等に入っていくと職員の体制が必要になってくる。また、業務の決定を新年度の始めにやらなければいけない。そういったときに年度途中で決まってから、という決定の仕方では、職員に指示を出すことができない。年度内に市民と約束したロードマップを守るということを前提にやってきており、この議会中に上程をしたい。

【まとめ】

財政関係の情報、浸水害発生時の避難所の確保、プラザちゅうたい閉鎖期間中の考え方など説明を受け、協議を行った。執行部は、ロードマップに沿ってプラザちゅうたい案を令和7年第1回定例会に上程する予定。